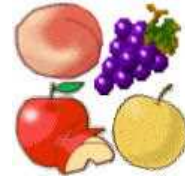




平成29年度 果樹情報 第13号

(平成29年9月22日)

福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (9月前半：果樹研究所)

平均気温は、平年と比較すると1半旬が20.0℃で3.9℃低く、2半旬が21.2℃で1.4℃低く、3半旬が21.5℃で0.1℃高く経過しました。

この期間の降水量は29.0mmで平年の37%でした。

2 生育状況 (9月15日時点：果樹研究所)

(1) りんご

ア 果実肥大状況

暦日比較では、「ふじ」は縦径98%、横径100%とほぼ平年並で、満開後日数による比較でも平年並です。

イ 「つがる」の収穫期と果実品質

収穫盛期は、8月30日で平年より4日早まりました。成熟日数は121日で平年より4日短かくなりました。果実品質は、果実重が300g(平年比106%)、RM示度(糖度)は14.7、果肉硬度は12.1ポンドで平年と比較して果実重は大きく、糖度は高く、果肉硬度はやや高くなっています。

ウ 「ふじ」の裂果発生状況

9月11日現在(満開後133日)の「ふじ」/マルバ台の外部裂果率は1.7%、裂果発生率は38.3%で、外部裂果率は低い状況ですが、裂果発生率は平成25年以降最も高くなっています。また、「ふじ」/わい性台の外部裂果率は0%、裂果発生率は20.0%で、裂果発生率は「ふじ」/マルバ台と比較して低い状況です。

表1 「ふじ」の裂果発生状況

調査樹	樹齢	外部裂果率(%)					裂果発生率(%)				
		H29	H28	H27	H26	H25	H29	H28	H27	H26	H25
ふじ/マルバ	52年生	1.7	6.7	5.4	5.9	14.3	38.3	33.3	18.9	13.7	34.7
ふじ/わい台	21年生	0.0	4.9	0.0	0.0	7.9	20.0	45.9	14.1	5.0	21.1

※ 調査規模:2~5樹の目通り付近から60果程度採取した。

※ 外部裂果率:つる割れ、浮皮等の割合、裂果率:外部裂果+内部裂果の割合

(2) なし

ア 主要品種の収穫期と果実品質

「幸水」の収穫盛期は平年より1日早まりました。果実重は平年並で、糖度は平年より低くなりました。

表2 主要品種の収穫期と果実品質

品種	収穫始(月/日)			収穫盛(月/日)			収穫終(月/日)			果実重(g)			糖度(° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
幸水	8/25	8/25	8/19	8/30	8/31	8/22	9/4	9/6	8/25	380	380	376	11.0	12.6	12.8
豊水	9/11	9/13	9/1	未	9/19	9/9	未	9/25	9/20	未	429	413	未	12.8	12.9
二十世紀	9/14	9/18	9/7	未	9/22	9/10	未	9/27	9/12	未	401	421	未	11.2	10.9
ラ・フランス	未	10/6	9/28	未	10/7	9/28	未	10/9	9/28	未	294	310	未	12.9	12.0

注) 平年値は、1986~2016年(ラ・フランスは1987~2016年)の平均値、未は未確定。

(3) ぶどう

ア 「巨峰」の収穫期と果実成熟

「巨峰」(有核栽培)の収穫始期、収穫盛期、収穫終期はそれぞれ8月28日、8月29日、8月30日で、平年よりそれぞれ6～17日早まりました。また、「巨峰」(無核栽培)の収穫始期、収穫盛期、収穫終期はそれぞれ8月30日、9月1日、9月6日で平年より8～10日早まりました。

「巨峰」の収穫果の果実品質は、有核栽培、無核栽培ともに果皮色は平年よりやや高く、糖度は平年並、酒石酸含量は平年より高く、糖酸比は平年より低くなりました。

イ 「シャインマスカット」の成熟状況

9月15日(満開後95日)の「シャインマスカット」の成熟状況は、糖度が17.0、酒石酸が0.45、糖酸比が37.8でした。

表3 「巨峰」の収穫期と果実品質

栽培方法	収穫始(月/日)			収穫盛(月/日)			収穫終(月/日)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
有核栽培	8/28	9/3	8/24	8/29	9/10	8/26	8/30	9/16	8/29
無核栽培	8/30	9/7	8/29	9/1	9/10	8/29	9/6	9/16	8/29

栽培方法	果皮色(カラチャート値)			RM示度(° Brix)			酒石酸(g/100ml)			糖酸比		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
有核栽培	11.1	10.2	9.7	18.9	19.2	18.6	0.63	0.53	0.49	30.0	38.0	38.1
無核栽培	10.4	9.5	9.0	16.4	16.7	15.8	0.61	0.52	0.58	26.8	34.4	27.0

※ 平年値：有核栽培は1988年～2015年の平均値、無核栽培は1998年～2016年の平均値

表4 「シャインマスカット」の成熟状況

品種	調査日	満開後 日数	果房重 (g)	1粒重 (g)	糖度 (° Brix)	酒石酸 (g/100ml)	糖酸比
シャイン マスカット	9/8 9/15	88 95	455.7 448.4	10.7 10.1	16.2 17.0	0.44 0.45	37.0 37.8
(参考) H28収穫始期	9/16	101	741.7	14.2	17.3	0.25	68.3

気象庁[営農活動に役立つ気象情報] <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/nougyou/nougyou.html>

3 栽培上の留意点

(1) も も

ア 秋肥の施用

収穫後、9月のできるだけ早い時期に秋肥を施用し、樹勢の回復と貯蔵養分の蓄積に努めましょう。秋肥は尿素を中心に速効性肥料を用い、窒素成分で7kg/10a程度(あかつき：中肥沃度地帯の場合)を施用します。なお、樹勢の低下が見られる樹では分肥し、窒素成分で秋肥を6～7割程度、春肥を3～4割の施用量とします。樹勢が旺盛で、新梢の二次伸長程度の著しい樹においては、枝の充実を促すために施用を控えます。

イ 秋季せん定

現在、新梢伸長は概ね停止していますが、若木や強勢樹で新梢に二次伸長が見られる場合には、樹勢に応じたせん定方法とします。樹勢が強く徒長枝の発生が多い強勢樹では、9月中旬頃(徒長枝が太る前)を目途に収穫が終了した品種から秋季せん定を実施し、花芽の充実と樹勢の安定化、秋季防除における薬液透過の改善を図りましょう。適勢樹では、

主枝や亜主枝の生育を妨げる徒長枝を整理し、樹勢の乱れを防ぎます。弱勢樹では、秋季せん定を最小限とし、葉芽の多い中果枝や長果枝を多く配置することで、樹勢の回復を図りましょう。また、若木では適勢樹と同様の方法とします。

特に幼木から若木時代の冬季せん定が強く、主幹部に大きな切り口を作ると寒凍害を受けやすくなるため、夏季の新梢管理で残した主幹部の強勢な枝については秋季せん定時に整理しましょう。

また、ももせん孔細菌病の罹病葉が多く見られる場合には、樹勢を乱さない範囲で枝をせん除し、菌密度の低減を図ることも効果的と考えられます。その際、秋季防除実施前に秋季せん定を行い、ボルドー液がムラなく散布されていることを確認し、薬液の到達を妨げる枝は見直して除去するなど、防除効果を高めるよう工夫しましょう。

(2) なし

ア 晩生種の収穫

「あきづき」の収穫は、日本なし地色用カラーチャートで地色指数3.5～4の果実が糖度や食味の点で優れます。なお、地色指数が4を越えると糖度は高くなるものの硬度が低下してシャリ感が消失する傾向が認められるため、収穫が遅れないように注意しましょう。

(3) りんご

ア 中生種の収穫前管理と収穫

落果防止剤の散布、着色管理および収穫等の作業が遅れないようにしましょう。なお、落果防止剤の使用に当たっては、収穫前日数に注意しましょう。

収穫は、食味（果肉硬度、デンプン等）や地色の推移に十分注意し、適期収穫に努めましょう。

イ 「ふじ」の栽培管理

反射シートの敷設や摘葉等の収穫前管理は遅れないように実施しましょう。

「ふじ」の摘葉を9月下旬頃から実施する場合は、1回目は軽く実施し（3～4枚）、10月中旬に玉回しと合わせて再度強めに行うようにします。

(4) ぶどう

ア 収穫における留意点

収穫が遅れると脱粒や果肉が柔らかくなるなど果実品質の低下を招く恐れがあるため、適期収穫に努めましょう。

近年、栽培面積が増加している「シャインマスカット」は、「巨峰」等の紫黒色系の品種と異なり、果皮色による収穫期の判断が困難です。日当たりが良い場所は果皮が黄化しやすく、有色袋を使用している場合は緑色気味で仕上がります。収穫前に食味を確認した上で適期収穫を心がけましょう。

イ 秋肥

収穫後の9月中旬頃は秋根が活発に伸びる時期で養分吸収も盛んであるため、秋肥を施用し、来年の貯蔵養分を蓄積させましょう。ただし、新梢の遅伸びにも影響するので、自園での新梢の停止状況、葉色、新梢の登熟程度などをよく観察して施肥の量を判断しましょう。

施肥は尿素を中心に速効性肥料を用いて、窒素成分で2 kg/10a（年間施肥量の3割程度）を目安に施用します。

なお、樹勢が強い樹、葉色が濃く、遅伸びしているような新梢が多い樹では、秋肥の施用を控えます。

4 病害虫防除上の留意点

(1) 病 害

ア りんごの各種病害

9月中旬以降、降雨により湿度が高い状態が続くと、褐斑病、すす点病、すす斑病の防除が必要となります。また、炭疽病が認められる場合、二次感染により発生が拡大するおそれがあるため、罹病果は見つけ次第速やかに除去しましょう。薬剤は、晩生種を対象にオーソサイド水和剤80 600倍、またはストライド顆粒水和剤 1,500倍を使用します。なお、農薬の総使用回数と収穫前日数に注意しましょう。

イ ももせん孔細菌病

発生量は平年並であるものの、これまでの台風等の影響により、感染、発病が懸念される状況にあります。また、9月中～下旬に降水量が多いと翌春の春型枝病斑の発生が多くなる傾向にあるため、秋期防除を確実に実施することで越冬菌密度の低下を図りましょう。

防除薬剤は4-12式ボルドー液またはI Cボルドー412 30倍を使用し、9月上旬～10月下旬に2週間間隔で3回散布しましょう。なお、これらの剤にかえてクレフノン 100倍加用コサイド3000 2,000倍、またはクレフノン 100倍加用ムッシュボルドーD F 500倍を使用してもかまいません。ただし、コサイド3000は高温時に使用すると落葉等の薬害を生じることがあるので注意しましょう。

ウ なし黒星病

発生が多かった園では越冬菌密度の低下を図る必要があります。「豊水」収穫後に2回目の秋期防除を必ず行いましょう。薬剤は、オーソサイド水和剤80 600倍、またはベルコート水和剤 1,000倍を使用します。なお、散布は枝の先端まで薬液が十分量到達するように散布しましょう。

(2) 虫 害

ア コスカシバ

被害が多いもも園では、収穫後（9月中旬～下旬）にスプラサイドM 200倍、またはトラサイドA乳剤 200倍を樹幹部及び主枝に散布しましょう。

イ クワコナカイガラムシ

発生の多い園では9月下旬までに枝幹部に麻袋や飼料袋などを巻き付けてバンド誘殺を行い、2月上旬に取り外して適切に処分しましょう。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧いただけます。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>